

会員と千葉県連盟をつなぐ

ちばニュース

2015年12月号



2015年 岳人あびこ市民登山黒檜山 総勢44名参加



千葉県勤労者山岳連盟

Chiba Workers Alpin Federation

2015年12月1日発行 通巻272(毎月1回発行)

冬山の事故防止は

計画書づくりから

1 2月号目次

・ 目 次	2
・ 1 1月理事会報告	3
・ 会・クラブ紹介「岳人あびこ」	4
・ 4会交流山行報告	5
・ 第3 2回房総ロングハイク案内	6
・ 自然保護セミナー報告	7
・ バリ島トレッキング報告 ・ 広川 久晴	8
・ 〃 ・ 砂村 登茂江	9
・ 〃 ・ 佐藤 かほる	11
・ 被災地視察報告 ふわくハイキングサークル	12
・ 「ゆう」活動報告	13
・ 県連便り	15
・ 1 2月・1月予定表	16

表 紙 紹 介

「岳人あびこ」は、1996年に8人で会活動を開始し2016年には20周年を迎えるとの事です。

会活動では、地域に根差した会活動を実施しています。市民登山、地元の手賀沼クリーンハイク、ボランティア山行などを続けています。

会報「やまたん」は、毎月発行され、11月で224号になるそうです。

今後の課題は、高齢により退会者が増えている事とのことです。これは、各会・クラブの共通した課題です。

県連盟としても、取り組んで行かなければならない大きな課題です。

———編集者———

2015 年 11 月度理事会報告

■開催日時:11 月 19 日(木)19:00～

■開催場所:船橋市西部公民館

■出席:ちば山、松戸、茂原、船山、ふわく、東葛、シリウス、らんたん、かがりび、あびこ、岳樺、こまくさ、民医連、ふれあい担当、自然保護、ハイキング、教遭、救助隊、会長、理事長、副理事長、会計(山翠会理事兼任)、以上 22 名

■配布資料

- ・15年度事故報告
- ・事故防止・経験交流集会の案内
- ・32 回房総ロングハイキング募集
- ・16 回ふれあいハイク実行委員会報告

■議題

1. 委員会・救助隊報告

*教育遭難対策委員会(岡田賢)

1)事故報告

- ・鍋倉山(関田山脈)における打撲・歯の損傷(ちば山)
- ・八ヶ岳における転倒、打撲(東葛)尚、この事故は県連への事故一報無し→今後はこのようなことがないよう注意を喚起

2)事故防止経験交流集会

- ・開催が 12 月にずれたため例年より参加者少ないので、参加を呼びかけて欲しい

*救助隊(吉田重)

- ・11/7,8 上記集会へ向けてのトレーニング(いわき市)14 名参加
- ・集会では、トムラウシの事故について検証予定、低体温症等についても説明を行う

*ハイキング委員会(桑原)

- ・2016/1/30,31 第 32 回房総ロングハイク 募集人員 27 名

*自然保護(菅井)

- ・11/14 の自然保護セミナー、目標を

超える 149 名の参加に感謝いたします

- ・パネラーの 3 名とも好評だった

*ふれあいハイク(岡田正)

- ・10/31、下見実施 参加は障害者側 4 名、県連 5 名

- ・下見の結果、16 回目は鹿野山周辺とする

- ・バスを 3 台出す予定、内 1 台は東葛方面→集合は鎌ヶ谷市役所が良い

- ・本番では救助隊の協力をお願いしたい(4~5 名)

2. 50 周年関連(広木)

1)自然保護セミナー

- ・50 周年にふさわしい内容だった
- ・DVD を各会へ配布予定
- ・やりっぱなしではなく、紙媒体で記録として残す必要有り
- ・アンケートを取るべきだった

2)房総の山 50 選

- ・実行委員会、11/26 予定
- ・各会で取り組む山の報告を広木まで
- ・報告書の形式は未定なので、早急に決定し連絡する
- ・情報を HP に載せる準備中

3)バリ島トレッキング

- ・記念行事の事故等への対応について→参加者の見極め、下見の程度等が妥当だったか検討、安彦氏と対応

3. その他

- ・来年度連盟費算出の基となる会員数の報告。11 月末現在の会員数(男女別)を吉田へ(12/10 まで)

- ・県連総会 2016/3/6(日)

- ・全国総会 代議員 3 名選出要

■今後の理事会日程について

- ・12 月 17 日(木) 場所:西部公民館 時間:19 時より

会・クラブ紹介 岳人あびこ

会長 武内勇二

1996年10月に我孫子の山好き8名が小雨降る会津駒ヶ岳のテント山行で、新しい会の創立を宣言したのがその始まりです。当時の第2次登山ブームと健康志向も手伝って、2年半後の99年4月には会員数が59名を数えるほどになりました。登山経験のない会員が多かったため、会の理念の浸透と活動の活発化のため、機関紙「やまたん」の発行と月例の集会を通じて会員の融和と知識・技術の向上が図られてきました。山行計画、山行報告、活動情報などを載せた「やまたん」は、毎月休まずに発行され、この11月で224号を数えるに至りました。また、会員が綴る紀行文集「やまなみ」が99年7月に創刊され、その後1～2年毎に発行を継続しています。今日まで15号が刊行され、会山行の全て（山行数890回）を網羅、「やまたん」と共々会の歴史を刻んでおります。

会員は35名、約60%が我孫子市民ですが、最近の傾向としては柏からの入会者が多くなっています。男女別では、男性・女性はほぼ拮抗しています。年間の会山行は、四季を通して約50回実施されています。研修にも力を入れ、集会時の机上研修を毎月実施するとともに、山行時にテーマを決めて技術研修も行っています。更に今年は、「登山の基礎講座」（年間10回）を開講し新リーダーの養成とレベルアップを図っています。

年間の行事として毎月の定例集会、3月の年次総会の外、4月新人歓迎山行、6月市民登山、10月岳人祭（キャンプファイアー等）、12月に忘年山行を実施するほか、9月に施設通所者とハイキングを楽しむボランティア山行（ウイズハイク）と12月手賀沼のクリーンハイクを継続実施して、会員の親睦と市民との交流を計っています。

これまで、会の創立以来5年毎に周年行事（記念山行、記念イベントとオリジナルTシャツの配布）を実施してきました。5周年山行で「富士と周辺の山々」、10周年は八ヶ岳集中、15周年では谷川岳集中を实行しました。5周年のイベントは坪田和人氏の「ブナの山旅」と田部井淳子氏の「世界の山やまをめざして」の講演会、10周年では渡辺輝男氏の「山で遭難しないために」の講演と山遊亭金太郎氏による「落語」、15周年時には清澄山の東大演習林で森林インストラクターによる「房総の自然について」の学習を行いました。来年10月に創立20周年を迎えるにあたり、その準備に取り掛かったところです。

今後の課題は、平均年齢が65才と高く毎年5～6名の退会者が出ており、このままでは活動がじり貧状態になるのでは…ということが、最大の悩みです。そのため、ホームページ（<http://gakujin-abiko.com/>）の充実をはかり、外部に対して情報発信を強化するとともに、我孫子市、柏市の広報を通じて会の知名度向上をはかっています。毎年2月には我孫子、柏両市で新会員募集の説明会を開催し、また市民登山などの機会を利用して入会勧誘に努め会員増強に努めています。



夏山の一コマ 背景は立山・剣岳



岳人祭 ファイアー囲んで炭坑節



登山の基礎講座研修風景

2015 年 10 月 22 日 秋の唐沢山交流山行 報告

かがりび山の会 野田久生

松戸、柏地区の山の会 4 会が集まっての交流会も今回で 5 回を迎え、今回はかがりび山の会が担当する事となった。晴天となった当日、平日にもかかわらず多くの参加者で賑やかな山行でした。

また、トマトチーズ鍋を 4 会が混ざり合って作り、参加者同士随分打ち解けることができ、なかなか面白い趣向であった。参加者の皆様のご協力により有意義な一日を過ごすことができ、ありがとうございました。

参加団体 松戸山の会 8 人 シリウス山の会 6 人
松戸山翠会 8 人 かがりび山の会 10 人
計 32 人

記録 (かがりび山の会)

柏駅発 6:09⇒春日部⇒館林⇒堀米 8:02/8:30 発→
山道入口 9:25⇒城址公園天狗岩 10:00⇒唐澤神社 10:30
→昼食 10:40-12:30⇒京路戸峠 13:30→
諏訪岳山頂 13:55-14:00⇒峠 14:10⇒多田駅着 14:45
駅発 15:03⇒館林⇒春日部⇒柏 18:15

【所要時間：6 時間 15 分】・【食費：450 円／人】

■総合リーダーコメント (かがりび 川口光雄)

32 名も集まった事は初めてですね。これも各会の幹事さんのお陰と感謝します。会は別でも山を愛する方たちと交流させて頂くことによって見知らぬ山の情報を知ることが出来、大変有意義なことであった。そして食事も趣向を凝らし「皆で作って食べる」、4 会が混合で 4 班に分け鍋を囲んで良い交流になったと感じました。

また、新松戸にて 2 次会を繰り広げより一層親しくさせて頂き有難うございました。これからは レベルアップも

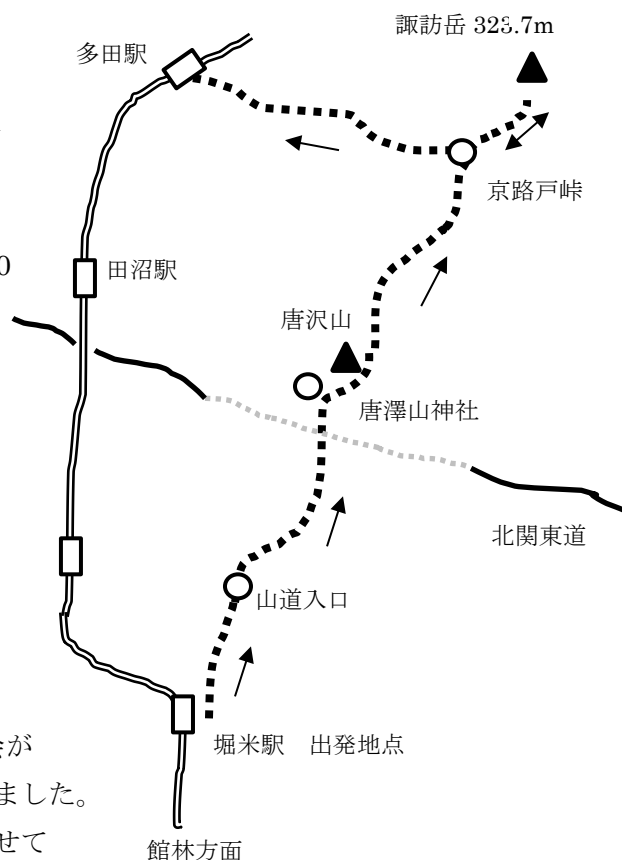
考えよりよい集まりにしたいと思いますので、ご協力を宜しくお願いします。有難うございました。

■各会リーダー口コメント

松戸山の会・丸山：お互い顔も見える楽しい山行でした。鍋も良かった。幹事役有難うございました。

松戸山翠会・町田：参加者多数、有意義な山行でした。来年は弊会が担当、宜しくお願いします。

シリウス山の会・佐藤：山を愛する仲間たちと再会し喜びを分かち合う。今後の発展を期待します。



第 32 回 房総ロングハイキング募集

主催 千葉県勤労者山岳連盟ハイキング委員会

日 時 2016 年 1 月 30(土)～01 月 31(日) 一泊二日 (当日参加可)

集 合 七里川温泉：沖津屋 30 (土) なるべく 15 時 30 分迄集合

31 (日) 当日参加 6 時 00 分集合

君津市黄和田畑 921-1 電話 0439-39-3211 フリーダイヤル 0120-397428

31 日コース 七里川温泉脇～石尊山～麻綿原～一杯水林道分岐～W0 (ツクバネ樫目印) 入口～
(東大演習林) 大平歩道入口地点～W15：烏帽子山々頂～W33：硯石分岐～向峰歩道
～鶏毛山W45～民地～坂本駐車場ゴール 歩程約 8 時間 30 分 (休憩 1 時間 30 分含む)

25,000/1 地図 「上総中野」「安房小湊」

募集人員 60 名位

費 用 6,000 円 (一泊二食と弁当、移動) 当日参加 1,000 円 (弁当、移動、)

締 切 12 月 25 (金) 各会責任者へ申し込む

直接電車で参加の方

電車時刻 (往) JR 久留里線 木更津発 13：01 上総亀山着 14：08

々 15：48 々 16：54

上記着の時刻に合わせて送迎車が出ます。

自家用車：直接七里川温泉に来て下さい。スペース 5 台位 (出来れば JR でお願いします)

行動予定

01 月 30 (土) 15：30～ 受付開始

17：30～ 挨拶、ガイダンス (日程、コース説明)

18：30～ 夕食、交流会後就眠

01 月 31 (日) 5：00 起床、掃除、支度

5：30 朝食 (弁当を受け取る) (食事は自由)

6：00 ロングハイク出発 (当日参加者は時間厳守)

14：30 坂本駐車場着 (JR、車の方はバスで送迎)

電車時刻 (復) 安房天津駅 15：00 発：千葉 16：50 着

安房天津駅 16：21 発：千葉 17：42 着 16：58 発：千葉 18：46 着

尚、東葛地区 (東葛、松戸、柏、我孫子) はバス利用して、前日軽登山してから
集合地 (七里川温泉) に行く事にしました。14,000 円 (バス代、1 泊 2 食 弁当、)

行先 江月水仙ロード (「津辺野山」山行 (案))

二日目 合同山行

*各会まとめて、申し込み先 ハイキング委員長 松戸山の会 桑原 年一
(TEL、FAX・メールで)

申し込み問合せ連絡先 ふわくハイキングサークル 実行委員長 中原 紀代治
(TEL/FAX 0475-34-4757)

自然保護セミナー実施報告

千葉県連盟 会長 広木 国昭

千葉県連創立50周年記念事業「自然保護セミナー」が、開催されました。
参加者数140名の目標に対し、17会・クラブより148名・会員外6名の参加がありました。直前になっても参加者数が少なく、多少焦りもありましたが、各会・クラブのご協力で目標を達成できました。

講演は、

- ・ 1部「房総半島の地形景観とその成り立ち」 講師 八木 令子博士
(千葉県中央博物館地学研究科)

房総半島の成り立ち、地形の特徴などについて解りやすい講演でした。

日頃、何気なく歩いている房総の山・谷などについて親しみを感じました。

- ・ 2部「千葉労山の自然保護運動の歴史」 講師 鵜沢 喜久雄 氏
(千葉県連元自然保護委員長)

千葉県連は1967年の創立以来、ふるさと房総の自然を守る運動に取り組んで来ました。鵜沢さんは先頭に立って活動をリードして来ました。

「追原ダム建設中止」を勝ち取った経緯を中心に報告しました。

- ・ 3部「鬼泪山を守る運動」報告 講師 佐々木 勇二先生
(鬼泪山を守る会)

鬼泪山は、地元にとってなぜ必要か、鬼泪山は地元の歴史であり生活を支えている事などを地元の立場での報告でした。東京オリンピックの施設建設で房総の良質な山砂は常に狙われています。監視を強化して鬼泪山を守ろうと呼びかけました。

3部構成の講演は、それぞれ関連がありとても良かったと思います。参加者からは、パワーポイントを使用しての説明で分かりやすくて良かったとの言葉をいただきました。

「自然保護セミナー」の実施は、50周年記念事業として早く決まっていた準備期間は十分ありました。しかし、具体的な内容、それに関連した資料の入手・整理などが進まず打ち合わせも出来ませんでした。記念講演を快く引き受けていただいた、鵜沢さんには大変申し訳ありませんでした。また、資料作成などで奮闘いただいた自然保護委員の皆様にお礼を申し上げます。

労山は創立(1960年)以来、登山者の使命として自然保護に取り組んで来ました。各地で自然を破壊する開発に反対し、「山からゴミをなくそう」と取り組んだ「クリーンハイク」は、登山者のモラルを高め、世論を動かし山のゴミは少なくなりました。

オーバーユースなど登山者の問題、温暖化など地球規模の環境問題も大きな問題である。自然を汚染・破壊する原因は多様で複雑になっている。

私たち、自然を愛し、山を愛する者は登山者の責任として、登山者と山岳自然の共存をめざし、2006年12月に「労山自然保護憲章」を定めた。

—— 労山自然保護憲章より抜粋 ——

バリ島バトゥール山報告 (2015年10月15日・16日)

広川 久晴 (松戸山の会)

バトゥール山・アグン山・観光、と忙しく過ごしいよいよ最後のバリ 2 番目の標高を誇るバトゥカル山に登ります。参加者はちば山・こまくさ・東葛から 2 人ずつ、シリウス・茂原・ふわく・松戸から 1 人ずつ、旅行社 1 人、ガイド 5 人、総勢 16 人です。観光後仮眠し、22 時にホテルロビー集合で出発します。今回の朝食弁当は大きいので 3 つに分けガイドさんに持ってもらうことにしました。

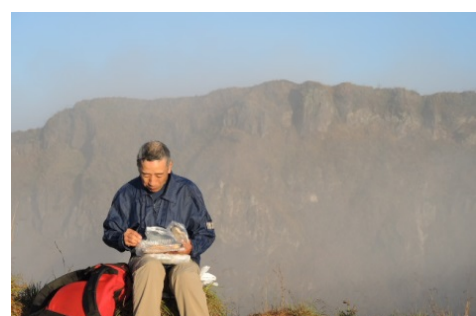
標高 850m のプタリ寺院から登り始めたのが 0 時 40 分、ここから 2276m まで登ります。標高差 1400m は丹沢の大倉尾根より少し多い程度です。歩き始めると何度かガイドさんの 3 分程のお祈りの時間が入りました。インドネシア全体では 9 割がイスラム教ですが、バリ島は特殊で 9 割がヒンドゥー教です。

夜中の山行はとても眠く、バリ島 3 山目になりますが毎回眠いのは同じです。ただ、この山は前の 2 山と異なり、頂上まで樹林帯でした。ホコリも立ちませんし、直射日光も当たりません。これは最後の噴火からの経過時間が長いために樹林が形成されたためと思われます。

5 時 50 分に頂上に着くも雲のために海から昇る太陽を見ることはできませんでした。ここには小さいながらも東屋や祈祷場所もありました。ここも信仰の山なのでしょう。高い場所に神が宿るのは万国共通なのかもしれません。頂上で大きな朝食弁当を食べた後、6 時 45 分より下山開始、同じ道を戻りプタリ寺院の駐車場に着いたのは 10 時 30 分でした。

一つ大きな反省点はゴミのことです。頂上で食べた残した大量の残飯を来た時のようにガイドさんに持ってもらって下山しようと考え渡したところ、なんとガイドさんたちはそのゴミを頂上に置いてきてしまいました。よく見ると山はゴミだらけです。美しい自然を守る、という観点はありません。日本でも 40 年前は山にごみを置いてくるのは当たり前でした。本来なら自然保護に力を入れている労山の姿を見せるべきだったのですが、逆になってしまいました。果物の皮や菓子の包み紙などはきちんと回収しホテルで捨てていたのですが一番大きなごみを残してきてしまったのが今回の山行の大きな失敗でした。

美しいバリ島ごめんなさい。



外輪山をバックに一人、
冷えたチャーハン弁当を開く

バトゥール山登山報告

砂村 登茂江（千葉こまくさハイキングクラブ）

ついに来たのです。此の時が…。

靴の紐しっかり締めて、はるばるバリ島の山々に会いに来たのです。

ここは赤道直下5月～10月は乾季、気温31度～24度、登山は日中を避けて真夜中に準備してご来光に合わせて登るのだそうです。

朝3:40参加者24名全員（83歳～58歳）勢揃いしてトヤブンカ村登山口を出発。日本勤労者山岳連盟千葉県連創立50周年記念海外登山に選ばれましたバリ島3山の初めに登る山1717m、『バトゥール山』です。行程時間2時間30分、火口一周1時間。私達24名は3班に分かれ出発です。すでに安彦様より、前後に各々の班の登山ガイド計6名お願いしてありました。

ヘッドライトを頼りに山に踏み込みました。靴先にグサッと火山岩の山だと感じました。道幅は十分有りました。道の両側は真っ暗でしたが木々が茂っていました。

ガイドは30分ごとに休憩を入れてくださいました。最初の休憩所には電灯もついていて

奥に寝屋を持ちご夫婦が穏やかに私たちの安全を守ってる感じの建物がありました。ヒンズー教を思わせる建物でした。自然と手を合わせて感謝致しました。

木々は低くなり登り坂。ゆっくり登ってほしい時は『プランプラン』と言うようにとの話です。前後が離れた時、何度か使いました。

「星月夜 プランプランと 助け舟」

ひたすら下を向きザクザク登り詰めて、やっとゆとりが出て目をあげると、真下はまだ覚めやらぬ世界遺産のバトゥール湖、その向こうのぐーんとそびえる山、さらに視線を登らせた東の空赤く、雲が棚引いていました。

その山の後ろに重なる高い山がアグン山、明日登る山だとのことでした。

ひと登りし

「さやけしや 両手を胸に 待つ日の出」
日の出6:00

山頂はまあまあの広さで、順番待ちの集合写真は、皆様満足感にあふれて輝いておりました。

手渡されたときはまだ温かかったナシゴレン（焼き飯）の朝食も恨めしく冷えていましたが有りがたくいただきました。

これからがバトゥール山の、火口一周ハラハラ歩きです。

アップダウンを繰り返し足場にたじろぎました。ガイドの手に渾身の力を入れて踏み、渡りました。

下りに入り、少し火口側に降りて蒸気の出ている所に行きました。遠くにも何か所も蒸気が見えていました。

人間てすごい、こんな山に蒸気卵？つくっていた人がいたのです。近くにタバコに火をつけて吸っている人もいるでは有りませんか。タバコの火は700度？、水蒸気になると水は1600倍の体積になる？？？

うわー、あつ熱つだー クワバラ、クワバラ退散しました。

右も左も一目千里の展望です。

この外輪山は大きく素晴らしい、二重に見えました

大自然の中に生きているのが不思議でした。天国の人にも聞こえるような有りっ丈の声を出したい衝動にかられました。

前後に人がいません。思わず空気をいっぱい吸い込みお腹に力を入れ、『ヤッホー！』

「バリ登山 一生一代声 ヤッホー」です。私の歩幅は63センチ。これからもいっぽー

歩で生きて行くのだと思います。

此のバリ島サンライズ・トレッキングに参加出来まして本当に楽しくって良かったです。涙がじいーんと湧いてきます。

県連会長の広木様ご夫婦には公私ともお世話になりました。

安彦様には特にお世話になり、不安なく参加出来まして心から御礼を申し上げます。

桑原様ご夫婦は、私達の目標です。

千葉こまくさハイキングクラブからも三人参加出来て心強く思いました。

皆様本当に有難うございました。ひとり一人に拍手を贈ります。

「登山ガイド 靴下はかぬ 登山靴」

有難うございました。

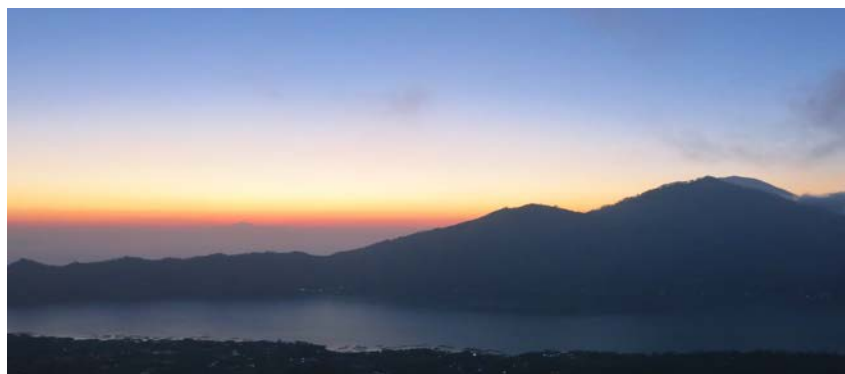
8：30山々に感謝しつつ下山致しました。所が、ここから一瞬にして事故がおきました。続きの山道は広かったのですが傾斜も厳しく石もあり、砂利道で歩きにくさが有りました。

女性のKさんが靴をすべらせました。足首を痛めたのです。救急車が来てくださって病院に運ばれ手術もされましたが、有り難いことに、一緒に飛行機で帰れました。

誰でもが起こりうる事故でした。彼女の回復を祈りつつ日程通り旅は進みました。

Kさん、またご一緒いたしましょうね。

それでは皆さま.ごきげんよう、さようなら。



参加お礼

千葉県連創立50周年記念事業の最初の事業「バリ島サンライズトレッキング」が10月14日～10月20日、9会・クラブから24名の参加で行われました。バリ島の登山については、現地情報が少ない中での記念事業には不安がありました。

実施にあたりましては、各会・クラブの大きなバックアップに後押しされて実施する事が出来ました。特に東葛山の会の皆様には、下見山行をしていただきました。現地では、下見の成果がいかに発揮されて大変助かりました。ありがとうございます。

深夜から明け方にかけての山行、山行中の食事、ホテルでの仮眠など厳しい面もありました。ほとんどが初めて顔を合わせたメンバーでしたが、ちば労山の仲間として和気あいあいと楽しい7日間でした。

あらためて、参加者の皆様にお礼を申し上げます。また、一緒に山行を出来る事を楽しみにしています。

そして、安彦さんご苦労様でした、そして有難うございました。

千葉県連会長 広木 国昭

バリ島サンライズ・トレッキング

佐藤かほる（山の会らんたん）

家に帰ってからの1週間は微熱と胃痛（持病）と靴ずれに悩まされ、なにも手につかずに日々の忙しさに追われ毎日が過ぎていましたが、体調も良くなり10日ほどして写真の整理を始め、ブログ（柏山の会らんたん）を書き始めると、バリ島での1週間の思い出が、沸々とわいてきました。

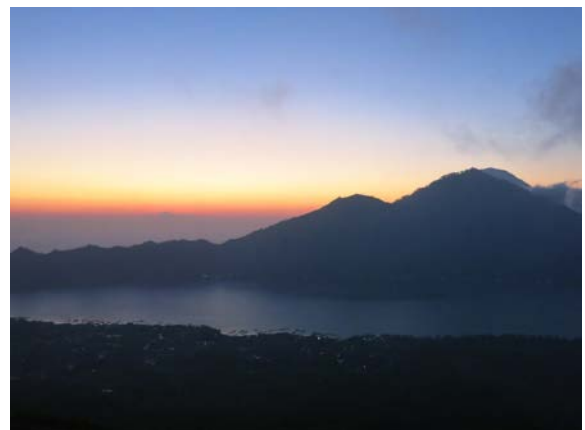
バリ島の1週間は、三大舞踊『レゴン、ケチャッ、バロン』鑑賞（睡魔に襲われながらの）、世界遺産の『タマン・アユン寺院』見学、『タナロット寺院』でのインド洋に沈む夕日鑑賞、レストランで『ライステラス』を眺めながらのビュッフェを楽しみ、美味しい食事に舌鼓…と、諸々バリ島を満喫させてもらいました。

トレッキングでは、海外での初の夜間登山『バトゥール山』に挑戦。山頂でのご来光に興奮し、火口一周の稜線歩きも天気にも恵まれ、素晴らしい景観が広がり、心に沁みました。

また、深夜より登り始め、往復12時間の過酷なレースさながらの『アグン山』。頂上まであと30分手前の岩場で、吹き飛ばされそうな北風に帰りのことを思うと、体力に限界を感じ引き返すつもりでした。が、頂上を目の前に諦めきれずポーターに手を貸してもらい、強風の中必死で一步一步足を進め頂上を目指しました。頂上はさらに強い風が吹き遮る場所も無く足を取られ、皆を風よけに記念撮影。達成感・満足感は誰よりも？のおもいで頂上に立ち感激しました。帰りは無事戻りたい一心で足元に集中しアグン山を後にしました。

『バトゥール山』はパス（靴ずれもあり）し、フリータイムを満喫。こまくさハイキングクラブの砂村さんとホテルでの朝食をゆっくり済ませ、バリ島のビーチを楽しむことにする。浅瀬で泳いだ後は、ボートで沖に出て砂村さんのシュノーケリングを拝見。沖縄で何度か体験したとか…見事であった。私は海水に噎せアップアップし、最初で最後であろうシュノーケリングを体験しました。手振り身振りの日本語でディスカウント半額のオイルスパのおまけも付き、サロンという腰巻風の布を体に巻きつけてもらい有頂天になり（痩せ過ぎの私にはまったく似合っていないが）、バリ島での良い思い出が沢山できました。

リーダー安彦さんの“山も100%、観光も100%楽しむ”の言葉に感動し、思う存分バリ島を楽しめ満足しました。皆さん有難うございました。



福島第一原発被災地視察と鎌倉山、登山報告

(11月4日・5日)

中原 紀代治(ふわくハキングサークル会長)

8月の役員会で原発の被災地視察の提案があり、NPOの佐藤さんが中心に企画されました。参加者20名が千葉をバスで6時30分に出発、車中でう沢名誉会長の今回の視察と登山の話について説明がありました。崎山さんの原発についての講義を聞きながら、最初の目的地は、塩谷岬です。美空ひばりの「みだれ髪」の歌碑のある岬ですが、ここまで津波は上がったそうです。

小名浜から塩谷岬まで、道路沿いの街は、津波で殆ど崩壊4年を超えた現在でも誰も住めないゴーストタウンです。海岸線は、堤防工事で見えず、住宅は、撤去され土台だけ残っていました。被災地で見られる景色は汚染物が入ったフレコンの黒やブルーの山積みだけ見えています。開いている店は、土木工事関係者の為に、コンビニ、ガソリンスタンドが数件でした。

現地で南相馬市「小高9条の会」の志賀さんが被災地を案内してくださいました。許可無しでは入れない浪江町の請戸地区は、橋も流され住宅の土台だけが残って、田畑はセイタカアワダチ草など雑草だけの原野となり杉林は塩害で枯れていました。

鮭が遡上する川も荒れて魚も少ない状況で、請戸小学校は津波が起きた時間で時計が止まっていました。この学校では、津波の前に100名の児童を先生が引率して、2km先の山まで走って避難させて、命を救ったエピソードが残されました。

原発の、風向きで浪江町の方が一番放射能の影響が多かったのですが東電は、原発誘致を反対した、浪江町には、避難バスを回さなかったそうです。

人の住んでない双葉町では線量計モニターが有りましたが、値が反対地面で1・2マイクロシベルトも高いでした。放射能の被災地は、畜産農家の、牛3500頭、豚約3万頭、鶏44万羽が飼育されていたが事故後に鶏全羽、牛や豚の過半数が餓死した。その中で「希望の牧場」では行政の反対を無視して、売り物にならない被爆の牛300頭を飼育している。牧場では被爆牛が可愛そうと思うのと、汚染された牧草や水を摂取し続けた牛が、今後どんな影響があるか見守りデーターを残すそうです。

見学が終わり農家民宿「いちばん星」で入浴、美味しい酒を頂きながら見学した感想など話合いました。

5日は、田村市常葉町の鎌倉岳(967m)登山です、紅葉もピークで360度見渡せる山頂は、絶景でしたが、山頂での線量計の数値も最高でした。

4日(水) 晴れ 千葉6時30分出発⇒東関東自動車道⇒酒々井SA⇒常磐道⇒友部SA⇒6号線⇒いわき平⇒小名浜⇒塩谷岬⇒浪江町めぐり⇒希望の牧場⇒南相馬宿「いちばん星」⇒5日鎌倉岳の登山⇒帰



流された橋



志賀さんの案内で見学



鎌倉岳山頂にて

ゆう便り NO.17

長池 康雄（ちば山の会）

晩秋の風はすこ〜し寒く、仮眠のSAではぶるつとした肌寒さがありましたし、テント泊した峠の森キャンプ場への路傍には降雪のあとが点々として、ひょっとして雪の上の露営か？と、少々心配しましたが、幸いテン場は心地よく、眼下の町の夜景がすばらし優雅な夜の宴となりました。

歌もにぎやかにと言いたいところでしたが、だめですな！ 出てくる歌も詞が続かずズズズズズーと尻切れトンボになるのです。やんぬるかな！この老爺・・

震災後4年7か月、小高のボランティア活動センターの今は、トーンも落ちて寂しげな雰囲気かも？と思いきや、今日も120名を超えるボランティアが集結して、センター長の作業説明の番を待つのも結構な忍耐が必要。

支援の熱気が衰えていないのが嬉しいですね。

では、早速・・・

- 1、日時 2015.11.28（土）～29（日）晴れ
- 2、参加 15名
- 3、活動場所 南相馬市ボランティア活動センター
- 4、宿泊場所 峠の森自然公園キャンプ場
- 5、活動内容

・28日 一般家屋敷地内の庭木伐採、室内家財全搬出

作業場は何とボラセンの3軒隣り。近いのは嬉しいが目いっぱい過酷な労働が？との心配は杞憂に過ぎず、結果的には早い時間に作業を完了し、某温泉でたっぷり余裕の1日でした。

作業内容は1軒の民家の家財・倉庫の残材全搬出と廃棄処理、庭木の全伐採です。震災以来、どなたの手も入れられずまったく放置された状態で推移したようでした。このため、押入にはネズミが繁殖し堆積した糞の異臭とともに搬出作業にあたった女性のみなさんは大変だったようです。

家主である某病院の事務長さんが立会に見えて、一緒に家財の廃棄作業を行ってくれましたから、無人の家屋で作業するよりは仕事に熱気も入りますし、事後の達成感も大きいのです。そのせいでしょうか、トン袋（フレコンバック：自由度のある大きな廃棄物収納袋）が廃棄所にどんどん列をなしていきました。

私と言えば、ボラセン倉庫の中で雑然と積まれた袋の山の中からこのトン袋探しに大わらわ。そんな訳で現場の作業には余り貢献していないのです。やれやれ！

15時前には全作業を終了。立会の事務長に現場を確認していただき、集合写真のシャッターも押していただきました。現場出向中のセンター長への終了報告は電話となりましたが、こんなのは初めての経験でした。

スーパーで食材を買い、相馬・馬追いの催事場横を通り、“あなたどこいくの？”
“湯っさ！”の新田温泉原町ユッサで温まり、長路を走ってすっかり暮れたキャンプ
場に着きました。

・29日 峠の牧場、被災地の視察

希望の牧場へ向かうには富岡街道を辿るのが早道ですが、途中、帰還困難区域を
通るので通行規制がかかっています。それで、往路を原町まで戻りボラセンのある
小高を経由して牧場へ向かうのです。今日の牧場は、過酷な運命に置かれたとも知
らず、多くの牛達がゆったりと草を食んでうららかな牧場風景に見えています。

ボランティアの青年からこの牧場の経過や現況を説明してもらい、牛たちの厳し
い運命と言うのか、幸運な牛たちと言うのか、聞くひとの心を揺さぶる光景なのだ
と思います。

双葉町の横断看板「原子力は明るい未来のエネルギー」に対し「負の遺産として
現場保存を」と併設された2つの看板の文字が状況の激変を象徴しています。

帰途、海岸に高い防潮壁を建設中の四倉港に寄りました。ここでは道の駅「よつ
くら港」はもとより、絶品の海鮮丼のお店がお勧めです。

さて、冬に入り「ゆう」の活動はいったん休眠となります。3月暖かさを追って
再開となると思います。来る“猿年”も熱いご支援をお願いします。



家具の解体（気仙沼・鮎立での作業を
思い出します）



これが「トン袋」です

震災後4年7ヶ月経過し、ゆうの活動も長期になっています。
支援活動を継続できるのは、千葉県連・NPO法人「ちば労山ゆう」の会員の皆様
のご支援・ご協力のおかげです。

支援参加者も長期の参加になり、物心両面で負担が大きくなっています。そして
高齢化も進んでいます。ぜひ、ヤングとは言わないまでも若い層の支援参加をお願
いします。他団体の支援参加者は、若者が多いです。

現在、ゆうの活動資金は、ゆう会員の年会費・支援物資販売金が中心です。今年
の4月より、全国連盟に寄せられた支援金より、高速料金全額と宿泊費補助（一人
1000円）が支援されています。以前に比べて、参加費は少額になりました。
年末にかけて、支援海産物の販売にも力を入れています。ご協力いただける方は連
絡をお願いします。（連絡先広木まで：Eメール danphiro@zpost.plala.or.jp

県連たより

千葉県勤労者山岳連盟（千葉労山）

- ◎ 県連盟事務所
〒262-0033
千葉市花見川区幕張本郷 1-29-18
レジデンス幕張台 101 号室
TEL・FAX： 043-306-1190
Eメール：rousanchiba@grape.plala.or.jp
JR総武線幕張本郷下車、海側 徒歩5分
(県連事務所に常駐者はいません)

- ◎ 千葉県連ホームページ
<http://www.cwaf.jp>
県連盟への問い合わせは、上記ホームページ
事務局への問い合わせまでお願いします。
- ◎ 加盟会会員の事故一報送付先
教遭委員長・岡田 賢一
ken-ichi@f4.dion.ne.jp
Fax：043-271-4704
事故一報は、全国連盟事務局にも必ず
送付の事。
- ◎ 「ちばニュース」原稿送付先
機関紙委員会・広木 国昭
danphiro@zpost.plala.or.jp
- ◎ 連盟費振込み先
郵便振替口座 00160-3-481509
千葉県勤労者山岳連盟
- ◎ 東日本大震災・支援金振込み先
口座番号：ゆうちょ銀行
00240-8-98419
加入者名：NPO法人 ちば労山ゆう
代表者 吉田 哲治
- ◎ その他、県連盟、全国連盟への、
ご意見・問い合わせなどは・広木まで

NPO法人「ちば労山ゆう」

- 「ちば労山ゆう」とは、東日本大震災を支援するために、千葉県勤労者山岳連盟を母体として活動を始めた、被災者支援NPO法人です。
- ◎ 「ちば労山ゆう」への入会は
千葉県連盟ホームページから
常時入会出来ます。
・入会申し込みは
<http://www.cwaf.jp/contact/10-2/>
・「ちば労山ゆう」への問合せは
<http://www.cwaf.jp/contact/09-3/>

 - ◎ 支援活動日のお知らせ
・12月・1月はお休みします。

 - ◎ 支援物資販売活動について
皆様のご協力により、交通費の補助に役立っています。
引き続きご協力をお願いします。
三陸・気仙沼直送の支援物資は
「おさしみわかめ」「さしみこんぶ」
「くきわかめ」「すき昆布」
「とろろこんぶ」
おさしみこんぶは、鍋料理、昆布巻きにするとおいしいと評判です。
宅配も、相談下さい。
支援物資に関する問い合わせは
下記アドレスに連絡を！
danphiro@zpost.plala.or.jp

県 連 活 動 予 定 表

1月		行事予定	12月		行事予定
1	金		1	火	役員会
2	土		2	水	
3	日		3	木	
4	月		4	金	
5	火	役員会	5	土	事故防止交流集会
6	水		6	日	(さざんかの家)
7	木		7	月	
8	金		8	火	
9	土		9	水	
10	日		10	木	女性委員会
11	月		11	金	
12	火		12	土	
13	水		13	日	
14	木		14	月	
15	金		15	火	
16	土		16	水	
17	日		17	木	県連理事会
18	月		18	金	
19	火		19	土	
20	水		20	日	
21	木	県連理事会	21	月	
22	金		22	火	
23	土		23	水	
24	日		24	木	
25	月		25	金	
26	火		26	土	
27	水		27	日	
28	木		28	月	
29	金		29	火	
30	土	房総ロングハイク	30	水	
31	日	〃	31	木	

発行者：千葉県勤労者山岳連盟

〒261-0013 千葉市花見川区幕張本郷 1-29-18

レジデンス幕張台 101号室

TEL・FAX 043-306-1190（事務所に常駐者はいません）

発行責任者：吉田 哲治

編集責任者：広木 国昭

問い合わせ先：千葉県勤労者山岳連盟ホームページ 事務局への問い合わせ